

# RPJ News

2023年 4月号

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行

発行責任者：志井田美幸 / 長野敏宏 / 仁木守

E-mail [ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp](mailto:ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp)

## 内 容

### \* ヴィレッジセミナー2013年 研修報告(2)

#### 2. プログラムと組織

### \* 事務局からのお知らせ

#### ◎ 2023年度年会費のお願い

### \* ヴィレッジセミナー2013年 研修報告(2)

#### 2. プログラムと組織

#### Joe Ruiz 先生

この時間はヴィレッジの構成についてお話したいと思います。

我々のチームの数やプログラムの数などを紹介していきます。

我々がサポートしている利用者の多くがホームレスアシスタントプログラムを通して利用を開始した方々です。ロングビーチ市のみならずロサンゼルス郡の多くの場所にホームレスが多くいます。ヴィレッジが創設される前からこの様な人たちのためにアウトリーチやドロップアウトのプログラムが提供されていますが、我々のアウトリーチスタッフはコミュニティに出ていき、ホームレスで精神も病んでいる方を見つけ出します。

アウトリーチスタッフは、その様な方を直ぐにヴィレッジに連れてくるのではなく対人関係を作り上げることをします。路上に長く住んでいる人たちと良好な人間関係を作るには数か月必要な時もありますが、今の生活から変わりたいという願望が生まれた時にドロップインセンターに来てもらいます。

ドロップインセンターに来ると、シャワーが浴びられますし新しい衣服も提供されます。そして短期ですがケースマネジメントも提供できます。更にその人が希望すれば、ヴィレッジの活動を受ける資格があるか否かも調査します。それから一時的な住居や長期にわたる住居の提供を調査します。

この様に我々は先ず住居が重要と考えており「ハウジング・ファースト」と呼んでおります。

これは私たちの全体のアプローチに沿っている活動です。多くの場合我々のシステムで、色々なアセスメントの過程を通ることを条件付けています。そしてその方が仕事を見つけるのか住む場所を見つけるのか、学校に戻りたいのか等に係わっていきます。学校に行きたい、仕事に就きたいにしても先ず住む場所が無くてはいけません。住む場所を見つけてあげることによって目標の達成率は高くなります。

これがどの様な前提に基づいているかという、学ぶことに対して一番良いのは自分たちが実践できる場所があることですが、何時もそれが成功するかというともありません。もしも失敗したとしても学ぶことは有り、次の段階でそれを活用していくことが出来ます。ですからホームレスアシスタントプログラムは住居の面で大変大きな役割を果たしています。

我々は 75 か所の住居を提供できる環境を持っています。その他に 5 つのサービスコーディネーションチームがあります。そしてこちらのプログラムに参加を希望する人は、最初にウェルカムチームに行きます。

## Village Program Structure

### • Homeless Assistance Program

- Outreach and Drop-in Services / 8 Staff
- 25 temporary case management slots / 3 Staff
- 25 Safe Haven (HUD) Housing First Members / 3 Staff
- 24 Chronic Homeless Housing Vouchers Por Enrolled members / 3 Staff

### • 5 Service Coordination Teams

- Welcoming Team of 36 members / 45 Staff
- 3 FSP Neighborhoods of 108 members each (324 total) (Staffing Below)
- 2 FCCS Team of 147 members / 4 Staff

### • Employment Department

### • Resource Staff

- Medical Administrator (serves all members)
- Wellness Management Coordinator (serves all members)
- Medical Billing Assistant (serves all members)
- Housing Coordinator (serves all members)

ウエルカムチームには 4 人のケースマネージャーとハーフタイムで医師が 1 人所属していて、35 人から 40 人のサポートをしています。ウエルカムチームは、ホームレスアシスタントプログラムから入ってくる方だけではなく病院を退院した方が来ることもあり、ヴィレッジプログラムの入口となっております。そしてウエルカムチームに属する期間は、個人差はありますが 6 ヶ月から 12 か月です。この期間で参加者は個人的なニーズを満たす事が出来ます。例えば、住居が必要であればその期間に住居を見つける。政府からの援助金を受けていなかった場合は、殆どの方は受給資格を満足しているので、援助金の手続きを取ってあげる。この様にウエルカムチームは個人的ニーズを満たしてあげ、次のフルサービスチームへ橋渡しします。

フルサービスチームは 1 チームで 100 人から 120 人をサポートしており、集中的なサービスを提供するチームです。例えば、利用者が十分な生活能力を発揮できるようにすることや、特殊な技能を発揮できるようにすること、薬が自分で飲めないような方でも自分で飲めるようになることなど、このような支援をします。そして段々成長し、利用者が請求書の支払いが出来たりお薬を飲む事が出来たりと、普通の生活が出来る様になったり学校に行くことが出来る様になると、その人の人生も変わってきます。利用者のニーズが変わってくると、次のチーム「フィールド・ケイパブル・クリニカル・サービスチーム (FCCST)」に紹介します。

FCCST は現場での可能な能力をサポートする臨床サービスチームですが、この名前は政府から指定されたもので特別の意味は有りません。このチームに属する人は、実際はヴィレッジに頼る必要は無くなっています。実際には軽い支援やコミュニティにある資源を紹介する程度のサポートになります。

フルサービスチームの焦点が技能開発であったことに比べて FCCST の場合はその人たちがコミュニティで生活出来るようにコミュニティの資源と繋げていくということになります。

次はエンゲージメント・アポイントチームがあります。これは雇用チームですが、ヴィレッジにはキッチンとクッキーショップがあり働いている人がいますクッキーは外販もしています。その他に建物の維持清掃の人がいますし、オフィスの事務的なことで郵便物やメール・電話の対応や事務用品の注文などをサポートするオフィスサービスの人もいます。エンゲージメント・アポイントチームは、この 3 つの事の責任を全て担っています。その人たちはキッチンで働いたりクッキーを作ったり、清掃したりランチを作ったり、メンテナンスはトイレを掃除したり掃除機をかけたり、部屋を次のミーティングのために整備したり、等の仕事をしています。この様な仕事に就いた利用者は、1 週間に 5 時間から 15 時間働きますが、週に 5 日間毎日働いている方もいます。そして働いた成果はアウトカムとして正確に出てきます。例えばクッキーショップでは今皆さんから何百もの注文を受けて一生懸命焼いています。またパーティーなどへのケータリングサービスも行っています。これらで重要なのは、クッキーや料理が美味しいという品質の部分です。ですから皆のやっているこれらの仕事は現実の普通の仕事なのです。ですからヴィレッジに仕事が有るから働いているのではなく、期待される結果が有ってそれを満たさなくてはいけないという仕事で、カスタマーの要望を満たさなくてはいけないという責任がある仕事なのです。

この様に仕事が現実であり、期待されるものが現実にあるということ働く利用者は身を持って学ぶ事が出来るのです。しかしヴィレッジでの仕事は一時的なもので、10 か月から 12 か月位の期間になります。このシステムは利用者が一般社会に出て仕事出来るようになるために構築されたシステムです。この様に仕事をする事で、特殊な技能を習得するだけではなく、仕事するには何が重要かということを利用者本人が学んでいくこと、これが一番大切です。例えば、時間通りに仕事に来たり、綺麗な身なりで来たり、他の人と協調して仕事が出来たり、指導者の言うことをちゃんと聞く、ということです。しかし成果が達成できない場合や態度が出来ていない場合には解雇されることが有ります。しかしその失敗から学んで、再度その仕事に応募することは出来ます。

利用者によって、最初のこの様な学びは周知していて必要なく、次のステップに直接行けるような方もいます。その様な人のためにはコミュニティで適切な仕事が有るかを、就労開拓グループが進めていきます。その就労開拓グループは、雇用主と良い人間関係を構築する必要があります。そしてメンバーが仕事に就いた場合は、長期に就労できるようサポートしなくてははいけません。別途就労については詳しい説明

があると思います。

その他にリソーススタッフがあります。メディカル・アドミニストレーターはメンバーの物理的・身体的ニーズに係わっています。今まではメンバーの精神的なものだけに集中し身体的ニーズにはあまり関与しませんでした。しかし身体的ニーズも精神的ニーズも同じですから、共に対応していかななくてはいけないのです。精神的に病んでいる人は一般の人に比べて約 25 年早く亡くなるという統計が出ています。それは精神を病んでいるから死期が早くなっているというのではなく、身体的ニーズが満たされていないからです。例えば身体的な病気が全然治療されていないということです。それは栄養状態が良くなかったり、病気の治療が不十分だったという事です。ですから利用者に対しては、精神面だけでなく身体面も面倒を見る必要があります。

ウエルネス・マネジメント・コーディネータは看護師さんです。利用者にお薬を渡し、そのお薬を本人がどの様に管理すれば良いのかということをお教えています。

メディカル・ビリング・アシスタントは、メディカル・アドミニストレーターとウエルネス・マネジメントコーディネータとタイアップして医療情報を正しく記録しています。

その他にハウジング・コーディネータという人もいます。この人は他の業務もこなしますが、主にハウジングについて活動している人です。この人の仕事は、家主さんやアパートのマネージャーやハウジング会社の人と連絡を取り合って、メンバーが住居を確保できるように努力しています。

チーム全体としては色々な場面に入ったメンバーが、長くそこに居られるようにサポートしていきます。そしてディレクターとアシスタント・ディレクターが全体の管理をしています。

この表がチームの内訳です。

各々のチームには、ディレクターとアシスタント・ディレクターがいます。そしてフルタイムの精神科医がいます。私たちが一番困難なのは、私たちのモデルに精通している精神科医を見つける事です。そしてお判りいただきたいのは、精神科医がディレクターでは無いということです。精神科医がディレクターになると金銭的負担が増えてしまいます。

ある職種に精通している人が他の職種に適しているとは限りません。私たちがディレクターやアシスタント・ディレクターを探す時は、その人のリーダーシップを見ます。リーダーシップが正しくあり、監督出来て引っ張って行くことが出来るかどうかということが、一番の要件になります。精神科医を探す時は正しい医療教育を受けていなくては行けません、その人の価値観が他の人と働いたとき上に立って指示するのではなく協調してやっていける人か、ということを見ている。

そして各チームにはファイナンシャル・プランナーがいて、経済的な計画を立てています。多くの人は SSI という障害手当を受けていますが、そのお金を管理する事が出来ません。それでファイナンシャル・プランナーはその人の基本的なお金の使い方などを取り入れて、正しく請求書の支払いが出来ているか賃貸料が支払えているか、食費を正しく確保しているかなど、その人と一緒に取り組んで金銭管理が出来るようにしていきます。

コミュニティ・インテグレーション・スペシャリストの各チームにいます。メンバーの人たちが地域で連携してやっていける様に援助する人です。例としては、学校に行けるようにすることや、地域とどの様に連携していけば良いのかの方法を見つけ出します。地域統合については別途お話があります。

各チームには 8 名 パーソナル・サービス・コーディネータ (PSC) がいます。PSC はケースマネージャーの事です。そして PSC のうち 1 名は正看護師で、1 名は資格を持つ精神の専門家か准看護師です。その他の PSC のバックグラウンドは夫々まちまちです。PSC で過去に精神を病んでいた人もいますし、薬物依存症の人を専門に扱える人もいます。夫々が自分の背景を利用し、専門知識を出し合って協力しています。臨床的なライセンス保有者もいますし、そうでない人もいます。

以上がチームの内訳ですが、夫々のチームはスタッフが変わりますのでスタッフ夫々の専門性を活かした

| Service Coordination Teams         |
|------------------------------------|
| 1 Director                         |
| 1 Assistant Director               |
| 1 Psychiatrist                     |
| 1 Financial Planner                |
| 1 Community Integration Specialist |
| 1 Recovery Performance Assistant   |
| 8 Personal Service Coordinators    |
| 1 RN and 1 LPT/LVN                 |
| Licensed & Unlicensed              |

がらユニークなサービスを提供しております。

説明は以上になりますが、何か質問がありますか？

(参加者) PSC はチーム間で移動することは有りますか？

(Joe) 今迄のところ各チームの 8 名の構成に変化は有りません。専門外のメンバーが来ても PSC はどのようなメンバーにも対応することが業務なので、特殊性によって他のチームの PSC が担当するという事は有りません。各チームの PSC の業務は同じ理念の下で行われております。また各 PSC は専門知識を持ち寄ってチームのレベルアップを図っていきます。

1 つ説明が漏れていました。1 人の PSC が平均 16 名のメンバーを担当していますが、フルサポートをしなくてはいけないメンバーがいた場合は集中的にサポートしますので、担当数は極端に少なくなります。

(参加者) リカバリーについて質問ですが、最近リカバリーカレッジという言葉がイギリスから紹介されており、より教育的になっている感じがしますが、如何でしょうか？

(Joe) 仰っていることは良く解ります。以前にヴィレッジの仕事は永遠に続くだろうという話をしましたが、そのサービスは本質的な物であっても、技術的な面から発展させていこうという動きは理解できます。ヴィレッジでも現在のサービス内容で行っていくと同時に技術的なアプローチを使って更に効果的なものを持って行くことは出来ます。その様に、今後リカバリーカレッジと同じ様な方向に進んでいく可能性はあります。

(参加者) 希望を持たせる事で成長でき幸せになれる。とお聞きしましたが、どの様に実現していますか？

(Joe) その人に希望を持たせる、持ってもらおうようにするという事は、科学ではなく本当に芸術なのです。人が希望を持てるようになるということは、先ず自分がこの様な状況にあるということを確認なくてはなりません。自分の中でこの様な事があり成功したとか悲惨なことが有ったとか、自分の人生を振り返って認めなければいけません。認めない人もいますが、私たちは、それを認めることを強いることは出来ません。その様に認めない人も私たちは歓迎して受け入れることから始めます。

多くの人は病によって、病が自分のアイデンティティになっています。我々が受け入れるとき、その人をその人として歓迎します。それは病気の人を歓迎するのではなく人として歓迎するという事です。歓迎して受け入れた人はヴィレッジの全ての部門にアクセスする事が出来ます。それは食事の場所やトイレでも、従業員用とメンバー用の区別はなく全て共用です。そしてお互いが尊敬する関係を構築する様に進めていきます。そして自分に対する期待が高まった人は、そこから希望が持てて実現する事が出来る様になります。

ですから自分が希望を持つということに対して、ヴィレッジの環境が希望を持つことに貢献していることを私たちは信じています。

有り難うございました。



#### \* 事務局からのお知らせ

##### ◎ 2023年度年会費のお願い

本年度も是非協会運営にご協力ください。宜しくお願いします。

正会員年会費 10,000 円 賛助会員会費 1口 1,000 円(3口以上希望)

振込先 ゆうちょ銀行 口座記号番号 00110-7-315159

口座名 NPO 法人精神保健福祉交流促進協会

—編集後記— コロナ前最後となった2019年イタリア研修の報告が終わり、前号からヴィレッジ研修報告を開始しました。その報告は2013年実施で既に10年の月日が流れています。当時見ていたヴィレッジの活動と10年経った今、再度当時のヴィレッジの活動を見たときの感じ方は如何でしょうか？是非皆さんの現在と10年前のヴィレッジ活動を比較し、参考にできるところが少しでもあればと思いながら文章化を進めています。今まで多くの方々にヴィレッジセミナーにご参加いただきました。参加した当時を思い出すきっかけにもなると、とても嬉しいです。今後とも宜しくお願いします。(m.niki)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会